

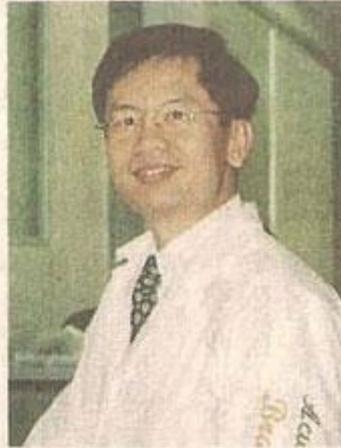
鍼灸の魔術師

(14)

ペンギン・文・育

さん

『けいれん』(全身・手足)



『けいれん』は中枢神経(つまり脳と脊髄)とくに脳になんらかの刺激が加わったときにおきる。

ペンギン先生の診療所を訪れて来る患者は、九〇%が七十歳以上の高齢者で、けいれん、こむら返りに悩む人が多い。『けいれん』をみるとだれでもびっくり仰天して、医師の往診を求める。

また脳の血管がけいれんしたり、破れたり、ふさがつてもけいれんの原因になる。脳出血や脳梗塞、あるいは脳血栓などがそれだ。破傷菌の毒素が脊髄に附着しても脳や髄膜にウイ

ルスや最近が感染してもけいれんがおきる。

『けいれん』のときの手当て

一、頭を打たないように怪我しないように気をつける。

二、救急車を呼び酸素吸入をする。

三、医師にきてもらう。

四、病院や診療所に連れて行き、入院するか、自宅で治療すべきか決めてもらう。

五、当座の手当ては安静第一です。

○ペンギン先生の治療を受けた人の病例

六十七歳の会社員。工場で突然けいれんが起こり、脊椎、手足が痛み、口がきけなくなり、友人が診療所に連れてきて急診を求めてきた。

診察の結果、意識ははっきりしているが、脊椎が硬直、表情は痛みに耐えかね、口がきけない状態。

ペンギン先生は早速針で急所、つまり風池、大椎、霊

骨、内関、陽陵泉と委中點等を刺して血を抜くと五分後にけいれんはなくなり、脊椎の硬直も正常になった。

患者は常日頃過労で、体が弱っている。前夜家族と口論があつて、睡眠不足の状態で行ったが、疲労で突然けいれんし、病気になるつたと言

う。

患者は顔面そう白、体が弱っている。話すとき、息が切れる。舌は苔が薄く脈が弱い状態だ。

診察の結果「気陰虧虚症」

一、一か月の針灸治療を指示する。

二、二十日間、毎日漢方薬芍薬、甘草湯を服用すること。三、十全大補丸を服用する。

ペンギン先生の鍼灸と漢方薬併用の治療は迅速に病気の症状を回復させ

る。効果はてき面でけいれんの再発がないようになつた。